

対応状況報告書

大 学 名： 茨城大学

評価実施年度： 令和 3 年度

報 告 年 度： 令和 4 年度

対象となる基準	基準 5－3
改善を要する点	○ 理工学研究科博士後期課程において、実入学者数が入学定員を大幅に下回っている。
対応状況	・理工学研究科博士後期課程：0.72 倍（平成 29 年度～令和 3 年度）と改善されている。 上記改善を要する点の指摘を改めて精査したところ、平成 29 年度及び平成 30 年度の志願者数及び合格者数にそれぞれ国費留学生 1 名が含まれておらず、また平成 31 年度の志願者数及び合格者数に秋季入学者 6 名が含まれていないことが判明した。これらの人数を含めて平成 29 年度～令和 3 年度の 5 年間の入学定員に対する実入学者数の比率の平均を計算すると、その数値は 0.72 倍となり基準 5－3 を満たしている。 他に誤りがないか改めて確認したところ、理工学研究科博士前期課程及び農学研究科においても、平成 31 年度の秋季試験の数値が含まれていないことが判明した。 上記のように数値を誤ったのは、入力内容の点検にあたり機関別認証評価の担当者内でのチェックにとどまり、当該研究科、入学課、学務企画課の学籍管理担当と十分に連携を図らず、関係部署による相互チェックを行わなかったことに原因がある。そこで、令和 4 年 6 月 2 日開催の内部質保証委員会において、委員長（学長）より、再発防止に向けて、今後は関係部署間の連携を密にするとともに情報共有を徹底したうえで、根拠となる資料・データの相互チェックを必ず実施するよう指示し、チェック体制の機能向上を図っている。 【根拠資料・データ】 5-3-1-04_認証評価共通基礎データ様式【大学用】様式 2（正誤表） 5-3-1-05_令和 4 年度第 2 回内部質保証委員会議事概要（非公表）

(注)

1. 機構で受けた大学機関別認証評価において、「改善を要する点」として指摘された事項の対応状況について記入してください。
2. 「改善を要する点」には、評価結果報告書の「Ⅱ 基準ごとの評価」の【改善を要する点】に記載された内容をそのまま転記してください。
3. 「対応状況」には、「改善を要する点」として指摘された事項に関して改善された状況の具体的な内容及びその改善を実現した取組について、根拠資料・データ等とともに「対応状況」欄に記入してください。
4. 根拠資料・データ等は、その名称を記載のうえ、別添として添付してください。評価結果の追記公表の際に併せて公表しますので、資料番号については、既存資料と重複しないよう、既存資料の資料番号以降の連番としてください。
5. 評価を受けた年度の翌年度を一年度目として起算した場合の三年度目の6月30日までに改善していると判断していない事項については、対応状況欄にその旨のみを記載してください。